

難民救援情報誌

Trial & Error

トライアル・アンド・エラー

—— 試 行 錯 誤 ——



- ボートピープル、2つのタイプ
- 自然破壊と難民
- インタビュー、タイ人として

撮影日誌

3月13日

カオイダン難民収容所の中の農園の入口にある、特設の留置場をのぞく。タイ兵が「入っちゃいけない」とえらい見幕で怒り出すので、いくら知らぬふりをきめこんでも長居はできない。今日も四角に囲まれた有刺鉄線の中に、20人くらいのカンボジア人が、地面にへたりこんでいる。その大半は、難民村からこの収容所にもぐりこもうとして運悪くタイ兵につかまった人々だ。彼らは、より安全な場所と第3国定住への手掛りを求めて、あえて危険をおかす。

午後、裏山で散発的な銃声が響く。人々は平静さを装っているが、心穏かであろうはずがない。

収容所の内も外も、生きようとする人々のいろいろな思いで満ちている。

カオイダン難民収容所にて

野中 章弘

笑顔を見た日

堀 明子

▼カオイダン難民キャンプのクメール・クラシカル・ダンス教室はJVCの自動車整備教修所の隣にある。

ラウドスピーカーを通して聞こえてくるカンボジア人特有の、どこことなくもの悲しく甘い歌声に魅せられて、私は何度かそこへ足を運んだことがある。ビニールシートで密封された狭い竹小屋は、風

通しが悪く、蒸し暑かった。空気も時間もビタッと止まっている感じだ。水不足から水浴はままならず、難民たちの体臭が充満している。だが、けっして不快な臭いではない。南国の空気と一体になった人間の臭いだ。

狭く細長い舞台では、金銀を取りまぜた華やかな衣装を着た女性が優雅に舞っている。それはあたかもスクリーンに写し出された映画のように、浮き出て見えた。

人々は踊りを学ぶため、また、見るためにここに集まってくる。ポルポト時代以前に踊りをしていた人、またキャンプに来て初めて踊りに接した人々。やや実力に差はあるが、みんな一生懸命である。

そして、何かの折には、このダンス劇団が出向いて、難民自身のためや外国人の難民救援関係者のた



撮影：野中 章弘

めに数時間のショーを披露する。

▼「この村には、映画館が2つあります」と知人のカンボジア人が教えてくれた。チョムカコー難民村（人口1万4千人）は、タイ・カンボジア国境線上にある難民村の一つである。国境の交通の要所にあるため、タイとカンボジアからの闇物資が、市場で並び、その

にぎわいは、他の村では見られず、生活感にあふれている。

竹の壁とニッパヤシで急造された映画小屋の入場料は5～10B（1B約10円）。昔のカンボジアの映画や、どこで手に入れたのだろうか、ディズニーの映画も上映されている。

▼難民キャンプや国境の難民村ではいまでも、食料・水の不足、病気、戦闘による負傷が絶えない。しかし十分ではないが、生きるための最低限の衣食住は手に入るようになり、踊り、歌、映画のような娯楽も生まれてきた。

しかしそれでも、彼らのやるせない心を癒すものではない。祖国に帰りたいくても帰れない、第三国への定住も困難になっている今、彼らはここで時を過すしかすべがないのだ。

ボートピープル、2つのタイプ

熊岡路矢

シンガポール・ホーキンスロード・キャンプの今年の人口推移である。

1月に91人、2月、11人、3月、93人。4月から増えはじめて126人、5月は、5月16日現在ですでに253人に達した。特に5月、デンマーク船が救助したケースでは、3m×14mの小船に174人が乗っていた。フランス船から32人、シンガポール船から28人、次いでベルギー船から19人がそれぞれフランスとベルギーの定住引取り保証の下、UNHCR(国連難民高等弁務官)の保護を受けることになった。5、6月は南シナ海が穏やかになるため、ASEAN諸国に辿りつくボート・ピープルは増えている。

82年の到着者をインタビューしてみると、次のような性格が確認できた。

I、旧政府および旧政府軍の関係者が、3～6年ほどベトナムで行われている再教育のキャンプに収容され、期間を完了もしくは途中で脱走し、ベトナムを逃れてきたケース。官吏、判事、旧陸海空三軍の少尉から大尉クラスが多い。難民キャンプ内の自治会は、こうした人々によって運営されていることが多い。この人たちは仏語、英語、中国語などを理解できる人も多いが、キャンプ人口の約15%程度である。

II、残りの大半は、都市生活者、都市周辺生活者、漁師、教師、学生、そして子供たちや乳幼児である。また技術者や芸術家なども散見される。この人たちの特長は、一部の教師と学生を除き、外国語も話せず、外国に対する知識もほとんどないか、不正確である。こうした人々の多くは、経済的によりよい生活を求めて出てくるようである。一般的に言えば、親などが、ボートに乗るための資金を集め、10代後半から20代の若者を外国へ出す。最近の到着者で言えば、15才～24、5才あたりの青少年の占める割合

が多くなってきている。

やっと波打ちぎわまで辿りついたボート・ピープルの脱出理由を分析している余裕はない。まず即時に、生存の基本条件を満たすための救援活動がはじまる。しかしその後、彼らは次のように大別できる。

④政治亡命者(狭義での難民)。

⑤政治・経済的困窮による避難民(広義での難民)。

⑥経済的によりよい生活を求めてきた移民。

もちろん難民の中には、3つの理由が混在しているために、一言で説明するのはむずかしいケースもある。それを承知であえていえば、Iの人々は、政治的亡命者といえよう。仮りに再教育キャンプでの期間を完了して家にもどっても、新しい体制での就職は不可能に近い。当人の家族も仕事につけない例も多いと聞く。また、18才以下の年少者の教育への機会も、旧政府・旧軍関係者の子弟では不利になっている。このような状態にある個人や家族がその将来に絶望して離国を企図したとしても無理はない。

一方IIの人々は、④と⑥の両方にあてはまる。この人たちには10代の少年が非常に多い。どこまで深く、亡命もしくは避難の意味が把握されているのか、疑問である。中には離国直前に親に勧められるまま船に飛びのってしまった少年、あるいは本人はそれほど望まないまま脱出してきた青少年も少くない。

本来、このIIの人々は、ベトナムの経済状態が整えば、命がけの逃避行をする必要がない人々である。その意味で、ベトナムの経済復興と総括的な社会的努力が強く望まれる。

国際機関や民間団体による救援活動や、「先進西側諸国」による定住受入れが、必ずしも祖国を離れなくてもよい人々の「希望」を刺激し、難民を生んでいるとしたら実に皮肉で、逆説的な結果となっているのではないか。

ベトナム難民と、生活を共にして、こうした疑問に考えさせられるのである。

自然破壊と難民

国連環境計画（UNEP）特別会議で、ナイロビ宣言は、環境破壊の原因は、途上国の貧困と先進国の浪費にあると言明した。一方、戦争こそ、環境破壊の最大の脅威である。

本橋 栄

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が現在“緑の木一本運動”という、パキスタンでの植林計画のための募金を進めている。なぜUNHCRが植林なのだろうか。

パキスタンには79年のソ連軍のアフガニスタン侵攻以来、240万人のアフガニスタン難民が流れ込んでいる。難民たちは炊事や暖房の必要から、薪にする大量の木を伐る。その結果、貴重な緑が失われ、ハゲ山が広がりつつある。乾燥地帯にまばらに生える牧草が育たなくなる。それは遊牧民であるパキスタン人の生活を脅かすことになる。木の伐採をめぐる住民との衝突も起きているという。

これに対しUNHCRは、難民に灯油とストーブを配給する一方、パキスタン政府を通じて100万本の植林を行おうとしている。

これは直接に難民を援助しようとするものではない。しかし他国に流れ込みそこで生活する難民の状況が大規模で長期的な問題になりつつある現在、難民の存在がひきおこす影響もまた深刻である。緊急救援に始まる難民援助活動だが、今後はこういった状況をも包括する視点を持たねばなくなっている。

こういった問題はパキスタンに限ったことではない。森林の伐採による土壌の浸蝕は地球的な規模で進んでいる。タイの東北部の場合も、毎年のように繰り返す洪水や旱魃は、森林の乱伐や焼畑農法による消失によって引き起こされている。木が伐られ、ひとたび植生がそこなわれると、激しい日射と降雨にさらされた表土は、乾けば固くひび割れ、あるいは砂塵をまき上げる。降ればドロ沼と化し、水があふれて流れだす。洪水が引いた後は沃土が失われ、土地の生産性は低下する。しかし増え続ける人口をまかなうために、限られた土地に休ませる間もなく輪作を行なう。あるいは、あらたに森林を焼き払って耕地としなければならない。そうして荒れた土地



アフガニスタン難民キャンプ、ベシャワルにて

が広がってゆく。

土壌の浸蝕、旱魃、洪水、それが農民の貧困に拍車をかける。食料生産や薪を得るために貧しい人々が貧しい自然を食いつぶさなければならぬ悪循環は世界各地に広がっている。アフリカ東部、あるいは、インドやバングラデシュの洪水の原因をたどれば、ヒマラヤ山麓における人口増加のため、開墾や薪のために木が伐られ、その結果山崩れの土砂が、インダス・ガンジス川の川底を浅くしていることがわかる。そのためわずかの増水でも洪水が下流のデルタ地帯に引き起こされるのである。

難民問題は今日の世界がかかえる問題の縮図である。視野を広げて考えれば、これらの問題に対してさまざまなアプローチが可能であり、また必要であることがわかる。



JVCプロジェクト

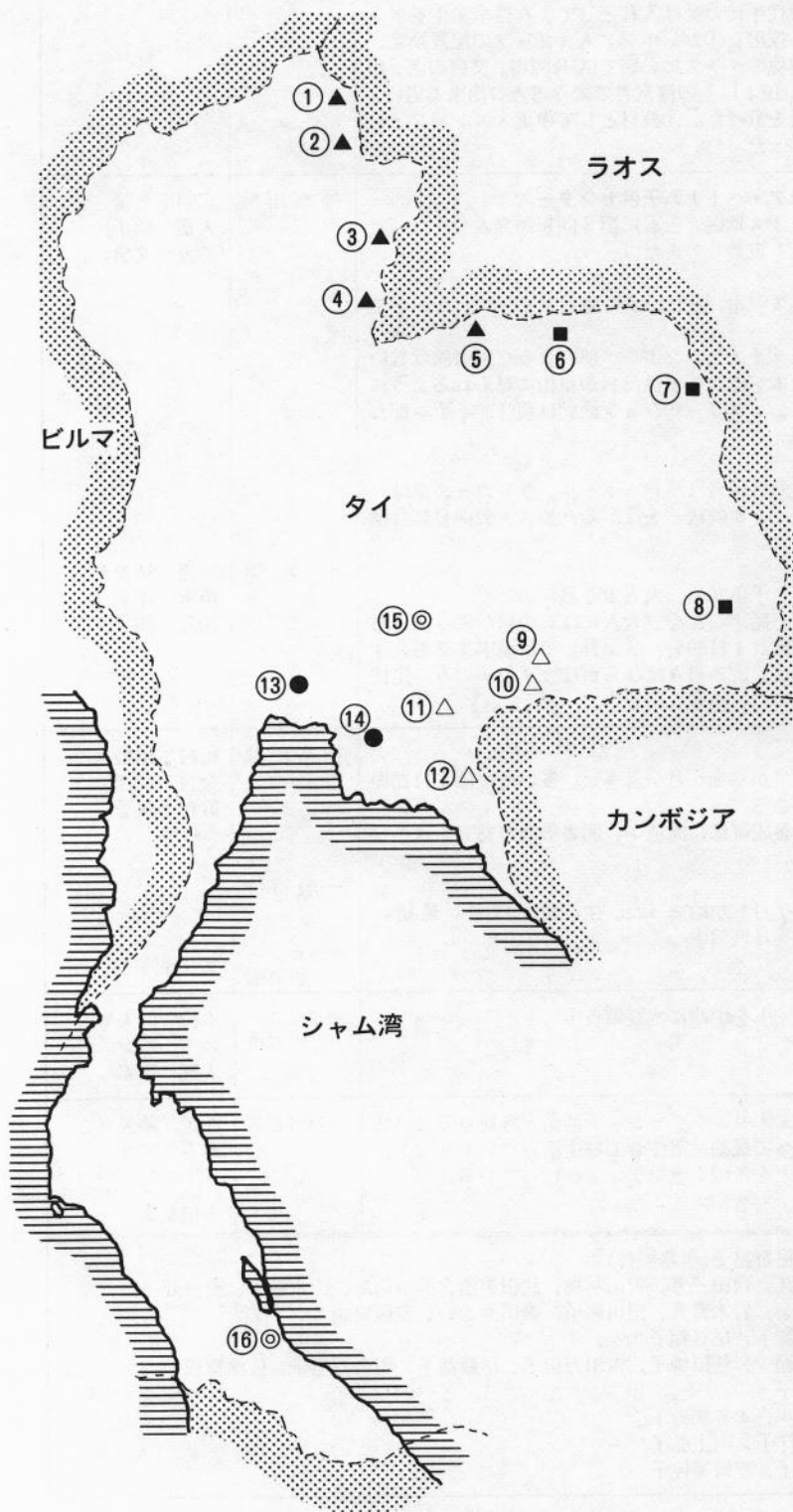
1982年4月20日現在

活動地名	活動内容	活動費 拠出者名	担当者
ウボン (ラオス人キャンプ)	自動車整備学校 生徒数116名。9月生18名は、3月に卒業。11月生はエンジン調整などを学習中。 今後は自動車だけでなく、大型水ポンプおよび発電機などの修理も教えていく方針。 3月11日より昼休みに英語を教え始めた。教師はイギリス人、受講生は50名ほどである。 織物学校 織物学習の合い間にラオス語、算数の授業を行っている。ラオス語は生徒が熱心なので順調であるが、算数には生徒が集まらなくなり、休講した。 また、教師不在のため、中断していた英語の授業も再開。 ラオス舞踊も好評。 日本語学校 中級クラスの生徒の日本語が上達している。 日本定住を希望していない生徒の何人かは、将来通訳としてJVCの各プロジェクトを手伝う予定。 図書館 タイ語からラオス語への翻訳作業、および本の朗読をテープに吹き込む作業が進行中。 衛生訓練 雨季と乾季休んでいた衛生訓練を再開。10才以下の子供たちに、体を常に清潔に保つ習慣をつけさせることが目的。 ハンディクラフト	UNHCR 一般寄付 裏千家 神奈川県 UNHCR 神奈川県	寺島 正一 ユタナ 森口 知代 バモアン 大野 直樹※ 磯辺 元秀
バンビナイ (ラオス山岳民族 キャンプ)	トイレ建設 JVC建設分31ユニット・トイレのうち、タイの建設業者に工事を依頼した15ユニット・トイレが、3月下旬完了。また、事務所およびその周辺の難民のためのトイレも完成。	UNHCR YMCA	古賀 道広※ 広瀬 毅 仙波千枝子 皆川 伸彦
チェンコン (ラオス山岳民族 キャンプ)	伝統医療 (Traditional Medicine) 患者数1日平均50名。また、TMCの増築も終了し、患者の治療、薬草も整理。 ところが、COERR (カソリック系の救援団体) が、プロジェクトリーダーを解雇したため、JVCは3月31日をもって、この活動を中止。今後はCOERRのプロジェクト継続に協力する予定。	COERR 一般寄付	渡辺 泰夫
タイ・カンボジア 国境	物資供給・小規模キャンプ支援 野菜栽培の調査研究の結果にもとづき、いくつかの難民村へ雨期に適した野菜の種の供給を計画中。またこれに伴い、農耕具などの供給も考えている。 教育関係品支給 CARE (アメリカの民間救援団体) の補助	西本願寺 UNICEF	金子 一弘 ニール・リー 竹内 俊之
カオイダン (カンボジア人 キャンプ)	自動車整備学校 生徒数118名。 スタッフ会議が軌道にのり、カンボジア人スタッフと、学校運営、人事などに関しても話し合うようになった。	UNHCR 千葉県	小松崎恵子※ トンデイ 小田中勝己

JVCプロジェクト

活動地名	活 動 内 容	活 動 費 拠出者名	担 当 者
	今月から、①自転車クラスの一部として牛車クラスの開始、 ②より多くの女性生徒の受け入れとして、女性卒業生をアシスタントとして採用、③カンボジア人スタッフの配置換え、 ④理論および電気のクラスにおいて(A)身障者、文盲の者、18才以下の者と(B)19才以上の健常者で読み書きの出来る者の2グループに生徒を分けた。⑤教材として単車・エンジン・自転車の購入を行った。		
パナニコム (第3国定住待ちの人達の一時収容施設)	ラオス・カンボジア・ベトナム子供センター カンボジア・ラオス地区とともに第3回舞踊発表会を行った。 月1回の発表会も定着してきた。 図書活動 JVCが管理している図書館は3館。難民スタッフ自身の手で運営中。 ベトナム部にはラオス・カンボジア部のような図書館はないが、数十冊の絵本を置いて子供たちが自由に見られるようにしている。また、レクリエーション活動は現在ベトナム部だけで行っている。 スポーツ活動 毎月1回、民族対抗試合(バレーボール、サッカー、卓球)を行っている。ルールの統一をはかるため、大会前日に会議を開くことにした。 日本語学校 第3期生学習中。子供20名。大人100名。 子供には聞くこと話すことを、大人にはこのほか読み書きも指導中。授業日数(1日90分、3ヶ月)では漢字まで導入することは、不可能。読み書きはひらがなカタカナのみ。定住待ちの者に対しては、漢字も指導中。	神奈川県 千葉県	穴戸 望 大貫 玲子 滝沢 文男 平賀 増美※ 清水 洋子 加島 伸彦
クロントゥーイ・スラム (バンコク市内のスラム)	図書館 図書館を再館してから2ヶ月が過ぎた。多い時には1日70冊程の貸し出しがある。 職員1人を司書養成研修に派遣中、図書機能の充実をはかっている。 電気工養成訓練所 第4コース(4ヶ月)が始まった。生徒数は17名。最初の1〜2週間の授業は理論中心。 学費援助	神奈川県 一般寄付 モラルロジー研究所	福村 州馬※ 金村 悦江 釘村千夜子 ブラキッット
井戸掘り	アランヤプラテートを中心に水質調査中	モラルロジー研究所	木村 信夫※ スラボン 入江 智幸
ホーキンスロード (シンガポール) (ベトナム人キャンプ)	教育(主に語学)・オリエンテーション活動・身寄りのない15才以下の年少者への援助、定住および生活カウンセリング、公衆衛生活動などを各国ボランティアが行っている。	UNHCR	熊岡 路矢※ 森本 マリ マリー・マリティヌ・キャマル 吉田友雄
バンコク事務所 会計総務 衣料整理 ハンディクラフト編集	岩崎駿介(代表)、星野昌子(事務局長) 深津高子、谷沢一江、鴛田三芳、大沼明穂、武田恵治、浜口功雄、山本敏幸、簗田健一、吉田二サ、タマスン、岩本繁芳、田川和子、森田やよい、安藤修司 上田晨子、磯村美智子、尾谷暢子 海老原美子、深谷範子、任田悦子、吉川万里子、伊藤清子、川合万里子、佐藤智恵子、山内協子、小池泰子 道代トリシリピサル、本多加寿子 八田さと子、山田洋子、川上弘子 松崎雅子、碓 知子、岩崎美佐子		
東京連絡事務所	税田芳三※、田島 誠※、他20名	※は、リーダーです。	

タイの難民キャンプ人口（3月31日現在）



① チェンコム	6,601 人
② チェンカム	22
③ バンナムヤオ	10,895
④ ソプトゥアン	7,607
⑤ バンビナイ	32,003
⑥ ノンカーイ	2,651
⑦ バンナポ	12,175
⑧ ウボン	10,928
⑨ ルムプク	848
⑩ カオイダン	41,037
⑪ バンケーン	23,387
⑫ カンプット	13,823
⑬ バンコク	454
⑭ パナニニコム	19,198
⑮ シキウ	4,138
⑯ ソンクラ	285

カンボジア人	△	93,140
ラオス人	□	30,921
山岳民族	▲	55,329
ベトナム人	◎	6,662
		186,052

（タイ国最高軍司令部調べ）

1982年4月現在

●アフリカ飢餓救済募金、ユニセフへ

JVCでは、ユニセフ（国連児童基金）のアフリカ飢餓救済募金を、昨年3月より募っていましたが、この度、3月をもちまして閉めさせていただきました。

募金総額は、313,056円に達し、5月にユニセフへ寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。

●新運営委員会が発足しました

東京連絡事務所では、4月23日から新しく運営委員会を設置いたしました。

この会議では、他団体との渉外、ボランティア調整、T&E編集、募金、会計の各担当者9名が、今後の運営について、話し合うものです。

毎月第3木曜日（7時から）に、傍聴人をまじえて、開いています。

OB各位、T&Eの読者の皆様のご意見やご要望を反映させながら、幅広い活動を行っていきたいと考えています。

●地方のOBたちは、今。

京都の「海外ボランティアをむすぶ会」のメンバーを中心に、5月8日9日京大で、アジアを考える会「アジアの風」が開催されました。

このように京都をはじめ、仙台、広島など各地でJVCのOBたちが活動を始めています。こうした活動に、JVCは協力をしていきたいと考えています。また地方で、アジアに関する催しなどの開催がありましたら当事務所へお知らせ下さい。



★アメリカ移民局は「これからは真の難民と経済難民をはっきり区別し、審査基準も厳しくする」と、従来の受入れ人数より25%減らす意向を示した。従ってこの方針により、他国への負担が大きくなる恐れがある。

★タイ政府は昨年8月15日以降にタイに漂着した、ベトナム・ボートピープルに対して、第3国へ定住する権利を認めていない。そのため、現在、タイに流れつくボートピープルはソンクラーで2～3週間、時間調整をした後、シキウキャンプに送られる。このキャンプでは民間の救援団体の活動は、ほとんど許可されていない。

また、タイ政府は本年4月1日付でノンカーイ・キャンプ（人口8,800）を閉鎖したが、1975年5月11日から80年12月末までにタイに入国した者は難民として認め、これに該当する約4,000人はバンビナイキャンプへ移送され、第3国定住まで一時収容される。しかし、81年1月以降タイにきた約4,800人の「不法入国者」に関しては第3国定住は許されず、ナコンパノムにある収容施設を経由して、ラオスへと送還される。

★このようにタイ政府の難民対策は、流入する難民を無条件で難民とみなさず、強行な政策で流入に対する歯止めにしようとしているものである。また、現在すでにいる「タイ政府が認めている難民」については、引き続き第3国定住の促進、本国送還などによって解決を計る方向である。このような政策の前提になっているのは、多くの難民が第3国定住を希望するために、難民となっているという認識である。これは、現在のインドシナ難民にあてはまるものでもあるが、「難民問題」に対する本質的な解決への方法ではないだろう。

★4月17日は故西崎憲司氏の一周忌であった。曹洞宗のボランティアも参加して、20名程がアランヤプラテートに集まって故人を偲んだ。生前多くの人に影響を与えた彼の人となり、ボランティア精神、援助に対する考え方を想起した。「然るに援助とは何や」、西崎さんは今も私たちに問いかけている。

（バンコク本部の4月の月報より）

世界の難民情報

1982年4月20日現在

UNHCR (国連難民高等弁務官) 駐日事務所 提供



●インドシナ難民

3月に、4,451人のボートピープルがアジア諸国に漂着した。(内訳、マレーシアに1,761人、タイに863人、香港に793人、インドネシアに749人)

同じ時期に9,031人(うちボートピープル5,314人)のインドシナ難民が定住のため第三国へ向けて出発した。

3月31日現在、インドシナ難民の総数は221,509人(うちボートピープル41,185人)

●アフガニスタン難民

3月31日現在、パキスタン政府に登録されているアフガン難民は2,696,621人、うち北西辺境州に1,382,658人、連邦政府管轄部族地域に757,763人、バルチスタン州に530,465人、残り25,735人は北部やその他の州に滞留している。

●海賊行為防止計画

1981年末、UNHCRが国際社会に資金協力を呼びかけた結果、8億8800万円確保できた。

各国政府および政府機関のUNHCRに対する援助
(3.13～4.19)

オーストラリア	6,840万円	海賊行為防止計画
	2億5,224万円	インドシナ難民
カナダ	2,976万円	海賊行為防止計画
	1億4,880万円	チャドへの帰還者
デンマーク	2,400万円	海賊行為防止計画
フランス	2,400万円	"
西独	9,600万円	"
イタリア	6,000万円	"
日本	1億4,400万円	"
オランダ	4,800万円	"
ノルウェー	6,384万円	"
	7,992万円	エルサルバドル難民
スイス	2,736万円	海賊行為防止計画
	3,120万円	在ザイール・ウガンダ難民
イギリス	4,897万円	海賊行為防止計画
アメリカ	2億4,960万円	"
ユーゴスラビア	1,313万円	在ザイール・ウガンダ難民

EEC

3,600万円 在オーストラリア・ポーランド難民

●UNHCRに寄付した主な非政府機関

国際赤十字委員会	110万円分の医療品	在ザイール・ウガンダ難民
オランダの難民委員会	3,600万円	在マレーシア・イスラム系カンボジア難民
	6,816万円	在タイ・パナニコムキャンプ
	2億5,632万円	在タイ・カオイダンキャンプ
	1,200万円	在タイ・ベトナム難民
	3,120万円	カンボジアの帰還者
	1,200万円	在タイ・インドシナ難民
オランダ難民評議会	903万円	障害者難民
ノルウェー難民評議会	1,208万円	ジブチのハンディクラフトプロジェクト
フィンランド難民評議会	1,666万円	ソマリアの孤児・障害者施設
アフリカ連邦評議会	1,176万円	タンザニア
WAR ON WANT (英)	1,920万円	エルサルバドル難民
香港パキスタン協会	189万円	在パキスタン・アフガン難民
犬養道子	336万円	パキスタン植林計画

●UNHCR各プログラムへの援助

フィンランド	5,208万円
西独	5億1,120万円
ザイール	480万円
リヒテンシュタイン	247万円
キプロス	86万円
マダガスカル	40万円

(\$ 1 = ¥ 240 として計算しました)

残された責任

在日インドシナ流民に連帯する市民の会

中田 豊一

2月14日の日曜日、私は難民認定に関するアンケート調査を行うために、神奈川県藤沢市周辺に住むラオスの難民達のところを訪ねてみました。そこで、新しく施行された難民認定法については、ほとんどの人が詳しい知識を持っていないことがわかりました。

ラオス人のKさんが、近所の幼稚園の募集要項を見ながら隣の人といっしょにしきりに首をひねっているのが目につきました。彼らの話は、子供をどうしても幼稚園に入りたいのだが、入園時に12万円ほどを納めねばならず、今の働きではとても準備できないといった内容でした。そこにいたラオス人の内の半分位は就学前の子供を持つお父さんたちで、大半は3人以上の子供を持っています。そこで彼らに、児童手当を受けているかどうか聞いてみましたが、誰もそれが何のことだか知らないのです。私も詳しいことは知りませんでしたが、相談にのってみました。すると1人の中年のラオス人が、実は私の家族にも何とかして欲しい問題があるから聞いてくれと言うので、私は彼の家を訪ねることしました。その家で見聞きした在日本難民の福祉の実態は、実に寒々としたものでした。

その家の主のPさん(45歳)は旧ラオス陸軍大佐で、政変後ラオスを脱出、母親、妻、4人の子供(上は17歳、下は4歳)といっしょに80年4月定住難民として来日。来日直後、Pさんの母親(76歳)が手足がしびれ、左半身の自由が利かなくなりました。1カ月程入院し、一応症状が安定したため退院しましたが、再び悪化し入院しました。医療費は全額保険から出たのですが、Pさんは、奥さんと2人の20万円前後の月給の中から、月約3万円をベッド料として支払っていたうえ、この正月には、正月休みを理由に退院させられ、往診にもまともに応じてもらっていないのです。念のために聞いて

みると、やはり老人と子供の福祉関係からは一切の援助を受けていないとのことでした。他にも、プレス工場で働いていて親指を切断しながら一銭の保証も休養手当ももらえず途方に暮れている22歳のラオス青年(この問題は後日解決)、建築現場で働いた2カ月分の給料を払ってもらえない青年、といった具合に問題が次から次へと出てきたのには、開いた口がふさがらない思いでした。

行政の側から言えば、それなりに制度は整っており出来る限りのことはする準備はある、ということなのでしょうが、日本語さえまだ満足でなく、ましてや法律や制度に関する知識は皆無に等しいとさえ言える、1,500人を越える在日本難民たちがどうやって自分たちのかかえる問題を行政機関に訴えていくことができませんか。

そんな彼らにとって唯一の頼りは定住センターで、職員の方々などは相当親身に相談にのられているようですが、とてもさばき切れる量ではありません。

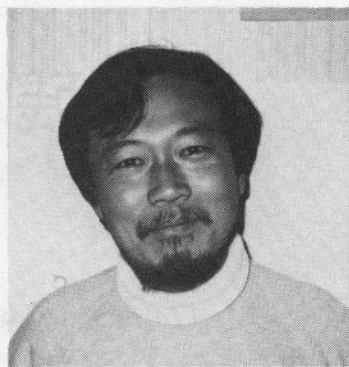
そこで考えられるのが、在日本難民のための相談窓口、あるいはケースワーカーの設置という方法です。日本の難民熱が冷めきったと言われる今、インドシナ難民問題に関心を持ち、何らかの形で関わった者に残されている責任の一つは、在日本難民の問題に関わることではないでしょうか。

インドシナ現地での目ざましい活動に比して国内活動が手薄であるというのがJVCに寄せられる批判の一つと聞きます。このへんで、JVCが、在日本難民の福祉のためにひと肌ぬいで、その行動力を発揮してくれば道も開けて来るのではないかと思います、いかがなものでしょう。

タイ人として

元UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）職員

タビチャイ・タームクナノン



インドシナ難民問題を考える時、大量の難民を収容しているタイの存在は大きい。国際機関や海外民間救援団体の外国人ボランティアは話題になるが、当事者のタイの人々がどう考えているのかあまり知られていない。そこで長年インドシナ難民救援に携わったタビチャイさんに聞いてみた。

タビチャイ・タームクナノン。ナコンパトムの農村の出身。チェンマイ大学社会学部政治学科卒。1975年から77年までラオス山岳民族キャンプでYMCAのボランティア・コーディネーターを勤める。その後、専門の地域開発の研究のためAIT（Asian Institute of Technology）に通う。79年、再び大量のインドシナ難民がタイに流入してきた時から、主にウボン・キャンプでUNHCR（国連難民高等弁務官）のフィールド・オフィサー補として活動する。32歳。

—— 難民救援活動に関わったきっかけは何ですか。

「難民問題」の本質を知りたかったし、なぜ難民が出てきたのか、誰が責任を持つのかなど、私の専門である政治学の視点からの興味があったからです。



ウボン・キャンプの織物学校。30人の生徒がいる。

—— UNHCRではどのような仕事をしていたのですか。

国際援助の調整を行っているUNHCRはタイ側の責任者と常に密接に関係して行動しなければなりません。トップレベルではまだしも、特にタイの地方役人との摩擦があり、言葉のギャップや利益、目的などの相違から誤解が生じたりします。その仲介役、コミュニケーションが円滑に運ぶように勤めるのが私の仕事でした。たとえば新たに難民がタイに来るとタイ政府は彼らを不法入国者とし、難民として認めません。すると難民は保護されず、本国へ送還される可能性がでてくるのです。そこでUNHCRは、庇護国、この場合はタイ政府と話し合っ、難民の身を保障するのです。

—— タイに「難民問題」が起こったのはいつ頃からで、どのような影響を与えていたのでしょうか。

それこそ100年も、いやもっと以前から、近隣諸国から難民がタイに避難してきてました。しかし今までは、小規模で一時的だった上、タイは仏教国であるということもあり、庇護を与えようと、彼らを受け入れてきました。それにそれまでの難民は自分たちで商売をしたり、働いたりしていたので別に大きな国内問題になりませんでした。しかし1975年以後は、難民が大規模に流入してきたため、タイ政府や国際機関が援助に乗り出したわけです。

—— 一般のタイ人の人たちは現在のタイ国内の難民問題をどうとらえているのでしょうか。

難民が自分たちよりもいい生活をしている、と自分たちの生活水準と比較しています。それは、救援活動がほとんどUNHCRや外国政府からのお金で行われているということを知らず、タイ政府がすべてしていると思っているからなのです。自分たちは

援助してもらえないのに、という気持ちがあるからなんでしょうね。

— タイ人は、日本のインドシナ難民救援活動を、どのように考えているのでしょうか。

一般的に、アジア人が苦しんでいると、西洋人はすぐ駆けつけるが、アジアの経済大国である日本は、何もしていない、と思っています。今なお、タイ人にとって日本人は、浮いている遠い存在だと思えます。これは、日本政府がUNHCRに多額のお金を出していることが知られていないからなのでしょうね。

— JVCのタイでの活動を見て、どのように感じられましたか。

私は、ウボンのキャンプのJVCの活動しか見ていないのですが、普通の人々が自分でお金をはたいて

誠意を持って活動していたことが、とても印象的でした。特に日本人の学習の場としてのJVCにとっても関心があります。

また、キャンプの多くは、女性です。その女性を対象に織物学校プロジェクトを開設したことは高く評価されています。

— 将来は、何をなさるのですか。

まだわかりません。こししばらくは、上智大学の国際関係学科の研究生として、インドシナとASEAN諸国と日本の関係について、またそれぞれの協力体制が本当に民衆のためになっているかどうかを、現場の活動から少し離れて、考えたいと思っています。

(聞き手 堀 明子)

JVCとの出会い、難民たちとの出会い

シンガポール人、ニール・リーに聞く

「海外に出かけ自分のできることを見つけたいと思っていたのですが、直接のきっかけは、JVC ボランティアに出会い、難民の実態を知ったことです」

いまタイ・カンボジア国境線に点在する難民村には、ざっと30万人のカンボジア難民がいる。新たにタイへ流入する難民も前年度の割合を上回った。

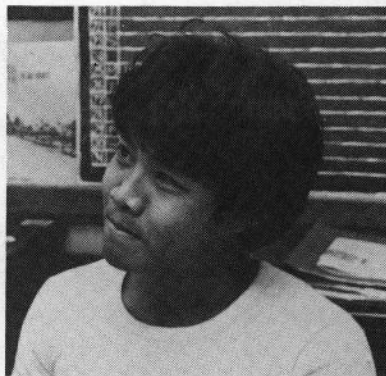
マレーシアで休暇を過ごしていた彼は、JVC ボランティアからその窮状を知らされたのである。

「難民問題を真剣に考えたことはありませんでした。話を聞いて初めて、現場へ行ってみたい、と思ったんです。カネはないし、あるのはただ身一つだったけれど……」

JVC ボランティアとの出会いは、彼にとって貴重な偶然だった。

シンガポールの公立高校を卒業。19歳のとき洗礼を受けた。しかし、その義務感から参加したわけではない。

「自分の生活や会社のためにだけ働きたく



マレーシア生まれ。81年2月から参加。現在タイ・カンボジア国境で活動中。25歳。

はない」と、彼は話す。

タイのクロントゥーイ・スラムでは図書館の建設に従事。81年10月から国境へ。「野菜の種供給プロジェクト」「教育プロジェクト」に参加。ここでは、彼を含めた3人のJVCボランティアが救援にあたっている。

「物資不足は変わりはありません。でも、国境の難しい状況の中で、JVCは他の民間救援団体とともにう

まくやっています。これからは、緊急時にすぐ対応できる現地での足場を固めることが必要ですね」

現在、JVCには8名の外人ボランティアがいる。彼はその中で最も長い。

1年間の活動を終え、先月来日。来年には現地で知り合った日本女性と結婚するという。「フィアンセがきれいだから、日本が好き」と白い歯を見せる。

ニールさんに、国家やアジアという壁はない。「そこに彼らがいるから」と新たな意欲をのぞかせる。

(黒川裕二)

ちょっと違う 家庭教師、 してみませんか

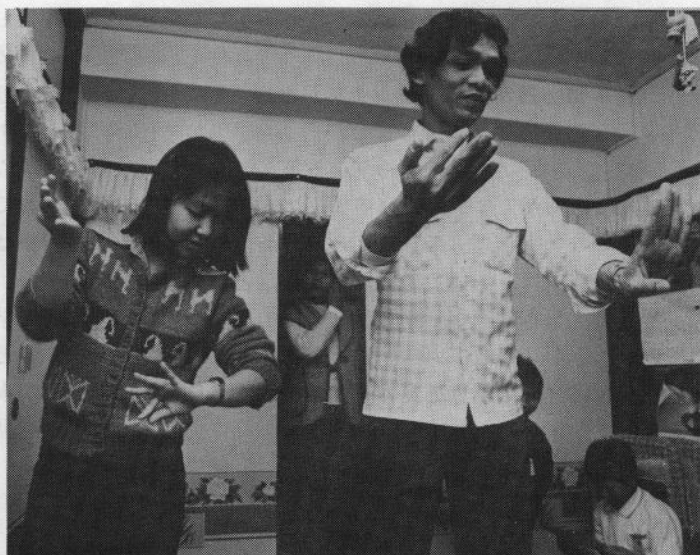
神奈川県横浜、海老名、綾瀬市に住む6家族のカンボジア人に、日本語の家庭教師ボランティアを募集しています。

週一回の家庭訪問ができ、明朗で、根気よく物事を教えることのできる方いらっしゃいませんか。年齢・性別・資格は問いません。

日本に定住したインドシナ難民は、現在約1,835人です。大和・姫路の定住促進センターで3カ月の日本語教育の後、日本社会での一人立ちを余儀なくされています。

セヤさんも、その一人です。工場に勤め、安定した家庭生活を送っていますが、日本語を余り使わない職場のため、センターにいる頃とくらべ、日本語が話せなくなってきました。子供たちは、学校生活や近所の友だちを通し、言葉もメキメキ上達しています。しかし親たちは、日常生活に追われたり、引っ込み思案になったりして、なかなか修得できないのが現状です。

定住者の最大の悩みは、語学力の不足によるものです。子供が学校から持ち帰る父兄宛の連絡表や納税通知書などは彼らには仲々わかりにくいものがあります。



カンボジアの踊りを教わるボランティア

そういった書類の中で何が大切かを教える日本人が側にいれば、彼らのささやかな助けとなるでしょう。

定住者たちとの会話は、まずボランティア自身が相手の言葉を学ぶことから始まり、時には、お互いの国の踊りや料理を披露しあうこともあります。そういった中で、少しずつ日本社会の習慣、価値観を伝えることが可能となるのです。

難民問題の取り組み方の一つに、個人的なつながりから端を発するものがあります。一人でも多くの人が、直接、難民たちに接し、彼らの抱える問題を共に考えていきたいと思えます。

詳しいことは、東京連絡事務所、ボランティア調整係までお問い合わせ下さい。

編集後記

▼「サーブン君がんばってね、おうえんしますよ。カンボジア難民としてサーブン君が転入して二ヶ月がたちました。」

T&Eの会計を担当しているK君は、サーブン君の家庭教師をやっている。彼がオフィスに運んでくれたガリ版刷の大森第四小学校(東京都、太田区)、四年二組の学級通信からは、教室にあふれる子供たちの声と先生の暖かさが伝わってくるようです。

「社会科の時、寒い雪の話になりました。サーブン君に聞いてもワカラナイという返事でした。二組は教室にしながら世界各国のようすがわかるような

楽しさがあります。故国を離れ、異国での勉強、たいへんでしょうが、よくできるサーブン君、大いにがんばって立派な人になり、カンボジアのために役立つ人に成長してほしい。これがみんなのねがいです。」

今、日本各地でこういった毎日の小さな努力が、積み上げられていることを心強く思います。

▼編集や事務所の運営に明け暮れている毎日。難民に関わっているつもりで、自分が実際に難民の力になれているのか自問しています。日常の関わりの中で培われるものを大切にしたいと思えます。

会 計 報 告

事業費内訳

(単位パーツ 1パーツ約10円)

プロジェクト	内 訳	金 額
パナニコム	活動費(レクリエーション, 他)	77,259 ⁵⁰
クロントゥーイ	" (道路補修, 他)	46,014
ウ ボ ン	" (織物学校, 他)	33,822
国 境	" (物資輸送, 他)	34,783
カオイダン	" (テクニカルスクール, 他)	147,587
ソ ン ク ラ ー	調査活動費	1,531
バンビナイ	活動費(トイレ建設, 他)	1,172,619
北 キ ャ ン プ	生活援助費	1,375
チェンコム	1～2月分自動車整備学校	58,447
バンナムヤオ	1～2月分 "	55,986
バンコク・ボラン ティアホーム	3月分家賃および電気, 水道料代	7,130 ⁵⁰
井 戸 掘 り	調査活動費, 他	29,506
合 計		1,666,060

3 月度会計報告 ('82.3.1～'82.3.31)

(単位パーツ)

内 訳	収入の部	支出の部	残 高
前月繰越金			6,089,367 ¹³
寄 付 送 金	1,000,985 ⁰⁵		
雑 収 入	249 ⁵⁴		
受 取 利 息	197,016 ⁸⁷		
仮 払 金	1,134,150 ⁹¹		
預 り 金	430	5,165 ¹³	
事 業 費		1,666,060	
事 務 経 費		151,553 ⁵²	
雑 損		180 ³⁵	
合 計	2,332,832 ⁴²	1,822,959 ⁵⁰	6,599,240 ⁰⁵

現金および預金残高 6,599,240⁰⁵



JVCでは

難民救援活動をより充実したものにするため, 以下の募金を受け付けています。ご協力をお願いいたします。

インドシナ難民救援募金 (4月小計 159,693円)

東京連絡事務所を窓口にしてバンコクに送られ, 各難民キャンプでのプロジェクト費にあてられています。

アフリカ飢饉救済募金 (3月締め 313,056円)

ユニセフ(国際連合児童基金)を通し, アフリカの飢饉及び政変などで飢餓線上にいる人々への, 食糧, 水援助などにあてられました。ご協力ありがとうございます。

ボランティア募金 (4月小計 21,000円)

現地で活動しているボランティアのための栄養および健康管理費にあてられます。

送金方法

住所, 氏名, 募金種目名を必ず明記の上, 下記の郵便口座にお振り込みください。

口座番号: 東京 9-27495

加入者名: JVC 東京連絡事務所

※ 会計の都合上, 「Trial & Error」の購読申し込みとは別に送金くださるようお願いいたします。

JVCとは

Japanese Volunteer Center は1980年2月, タイの首都バンコクで設立された民間救援団体です。

79年の暮れからのインドシナ難民の大量流出は, 私たち日本人にとって衝撃的な事件でした。日本から飛び出していった若者と, 現地タイですでに活動を始めていた日本人主婦たちが一体となり, 今の組織の原形ができました。

当初はタイ・カンボジア国境への物資輸送など, 欧米の民間救援団体を補佐するものでしたが, 現在は日本から寄せられる寄付金と各支援団体の援助金により, 独自のプロジェクトを展開しています。

JVC は, 難民, そしてそれと同様の窮境にある人々に対し, できる限りの援助を継続的に行うことを目指しています。常時50人近くの各国のボランティアが, タイ国内のラオス・ベトナム・カンボジア難民キャンプやバンコクのスラム街において活動を続けています。

また, 東京連絡事務所は, 日本と現地を結ぶ資金, 人材, 情報の窓口として機能しています。

「Trial & Error」年間購読申し込み方法

一般購読者 1口 3,000円(1冊送付)

賛助購読者 1口 10,000円(4冊送付)

郵便口座番号 東京 3-54186

住所, 氏名, 年齢, 職業を明記の上, 購読開始月をお書き添え下さい。

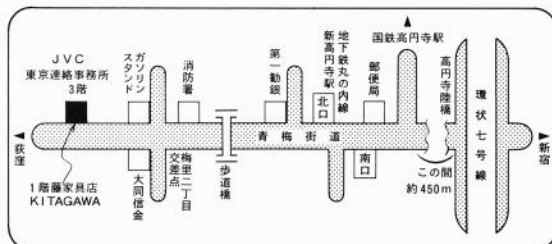


本 部 Japanese Volunteer Center
67 South Sathorn Road
Bangkok, Thailand
TEL 286-4857

発行所 JVC東京連絡事務所
〒166 東京都杉並区阿佐谷南1-1-5
三笠ビル3F 最寄駅 丸の内線新高円寺駅
TEL 03(316)3253

昭和57年6月20日 発行
毎月20日発行

発行人 税 田 芳 三
編集人 大久保 俊 彦
表紙撮影 野 中 章 弘
裏表紙撮影 加 藤 明 彦
印刷所 株ベスト・プリンティング



定価 1部300円